

## ASEANジャーナリスト招聘プログラムを実施

### —協力関係を一層推進—

2024年7月16日～19日

参加者： ポラメット・タンサタポーン バンコクポスト紙 記者  
カリシャ・カフィ ジャカルタポスト紙 副編集委員  
ディン・ティ・マイ・リン ベトナムニュース紙 報道記者

経済広報センターは、7月16～19日、ASEANジャーナリスト招聘プログラムを実施した。ジャカルタポストのカリシャ・カフィ副編集委員、ベトナムニュースのディン・ティ・マイ・リン報道記者、バンコクポストのポラメット・タンサタポーン記者が参加した。

#### ■有識者との懇談、企業訪問を実施

福田達夫衆議院議員との昼食会では、日ASEAN関係の歴史を踏まえ、今後も対等なパートナーとして共に成長していくことが重要であるとの認識で一致した。また、外務省の中村亮南部アジア部長、石井正文元駐インドネシア大使とASEANの中心性や団結、日ASEAN関係の現状と展望をめぐり懇談した。

加えて、三菱電機、伊藤忠商事、イオン、三菱自動車を訪問。デジタルトランスフォーメーション（DX）やグリーントランスフォーメーション（GX）、地域社会への貢献など、成長著しいASEAN諸国における各社の事業展開について、説明を聴くとともに意見交換した。

#### ■シンポジウムを開催～多くの学生や企業関係者が参加

国士舘大学では、国際シンポジウム「日ASEANの持続可能な経済協力の未来」を共催し、200人超の学生が出席した。これに先立ち、同大学で剣道を体験するなど、日本文化に触れる貴重な機会を得た。

最終日には、今回のプログラムの成果に基づき、シンポジウム「持続的発展に向けた日ASEANの今後の協力」を開催した。

同シンポジウムでは、日本経済新聞社の高橋徹上級論説委員兼編集委員が「日ASEANの現在・過去・未来」をテーマに基調講演。高橋氏は、日本がASEAN諸国から「これからも欠かせぬパートナー」と思ってもらうためには再び力強く経済成長することが重要と指摘。これを実現する意志と改革への決意を強く持つべきであり、それこそが日ASEANの共存共栄につながると述べた。

続いて、招聘ジャーナリスト3人とシンガポールのザ・ストレイツ・タイムズのウォルター・シム日本特派員によるパネルディスカッションを行った。大国間の緊張が高まるなかでのASEANにおける日本の存在感やエネルギー安全保障、プログラムへの参加を通じた日本の印象などについて、率直な議論が展開された。ASEANジャーナリストは、これまでの日本の貿易・投資を多とするとともに、今後も対等な立場でビジネスを行い、地球規模課題の解決に共に取り組んでいくことに強い意欲を示した。また、国際的な紛争時にエネルギーを安定的に確保するためにも、クリーンエネルギーを増やすべきとして、日本の投資に期待を表明した。



---

一般財団法人

# 経済広報センター

国際広報部

〒100-0004 東京都千代田区大手町 1-3-2 経団連会館 19 階

電話：03-6741-0031

<https://www.kkc.or.jp/>

<https://en.kkc.or.jp/>

※本稿の無断転載を禁じます。